



35万体制の卒先推進者

労働「本部」革マル 反動分子を弾 効する **その1**



82.1.27

No. 953

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆)品三(22)七二〇七

つぎに「経営改善計画」は国鉄三五万人体制攻撃という恐るべき大合理化・国鉄労働運動解体・破壊攻撃に対し、国労・労働中央、とくに動労「本部」革マル反動分子が一体いかなる対応を行なっているのかについて明らかにします。

国鉄(総評)労働運動の解体を狙う「三五体制」攻撃

日本労働運動総体が日帝支配階級のすさまじい軍事大国化・改憲攻撃の激化と労働運動の産業報国会化・右翼労働戦統一総評解体攻撃の前にそれを打って屈服し、先をあらそって「統一準備会」参加へと流されています。

そして今や、日帝・支配階級の狙いが「労働戦統一」「行革」の遂行による官公労の労働運動の解体、とりわけ、国鉄労働運動の破壊・解体にあることは、もはや明らかです。

われわれは、国鉄三五万人体制攻撃がまさに、国鉄労働運動解体攻撃そのものであることをはっきりと見すえなければなりません。

しかし、今日、国労、動労中央は、この恐るべき攻撃に対し何んら闘う方針を提起しないばかりか、逆につきつきと屈服し、右翼労働「統一」の先兵となり下った動労「本部」革マル反動分子に至っては、「三五万人体制を遂行することが職場を守るのだ」などと自らの屈服と率先協力の大量切りをインベイスし、組合員に対し、ドウカッをもつて屈服を強要しています。

完全な労資協調路線をつき進む 動労「本部」革マル反動分子

今日、国鉄当局は、車両検修要員の三人に一人(全国で一三〇〇〇名)という部外委託を提案しています。

さらに、内達一号の廃止は乗務員の大合理化攻撃も近々のうちに提案の動きにあります。

こうした「経営改善計画」の最大の攻撃がかけられているとき、動労「本部」革マル反動分子は、もはや「合理化絶対反対論」では闘えない。「検修民託をさせないために「働き度を高める」「国鉄の「社会的必要論」を前面に労資一体となつた政府要求を」「国鉄経営に参加を」など政府・国鉄当局に完全に屈服し、国鉄三五万人体制の最大の推進者に成り下ってしまっているのです。

職場討議シリーズ

「国鉄三五万人体制」攻撃を粉碎しよう

目次

- 一、はじめに
 - (1) 恐るべき三五体制攻撃……………第九三八号
 - (2) 闘いの危機！今こそ職場からの反撃を！……………第九三九号
- 二、国鉄の全面的再編を狙う「経営改善計画」の内容
 - (1) 後のない計画……………第九四二号
 - (2) 全職種・部門を襲う攻撃の具体的内容……………第九四三号
- 三、「経営改善計画」のもつ反動性
 - (1) 狙いは「国鉄労働運動の解体」！……………第九五〇号
 - (2) 侵略体制づくりをむけた国鉄の全面的再編第九五一号
- 四、指導部の屈服・裏切りと闘いの危機
 - (1) 完全な労資協調路線をつき進む動労「本部」革マル反動分子……………今号
 - (2) 「安定宣言」路線、から「冬の時代」論、「謀略」論を経て、「経営参加」路線にまでたどりついた腐敗への道……………(以下次号)
- 五、いかに闘い、いかに粉碎するのか

このことは、「動力車新聞新年号」の座談会で松崎明や福原「本部」組織部長が公言しています。

「冬の時代論」「謀略論」で闘いを 放棄する動労「本部」革マル反動分子

動労「本部」革マル反動分子は、「情勢は厳しい」だから「闘うべきではない」という「冬の時代」論を再三くりかえし、組合員の闘う方針を要求する声を圧殺し、三五体制への屈服を強要するという極めて反動的な「指導」をもつて逆に国鉄当局の最良の協力者・国鉄三五体制の率先協力・推進役をはたしています。

さらに、「本部」革マル反動分子は、長期間にわたって「謀略論」を再三再四組合員に対し宣伝してきました。「闘う動労に対する権力及び権力密通分子からの謀略がかけられている」として、全国で発生した国鉄事故の全てを「権力の闘う動労に対する謀略」であるとして、運転保安闘争を一切放棄してきたのです。

そして、この「謀略論」は、「小谷謀略」「本部」革マル・小谷に対する社青同解放派からの襲撃事件でその頂点に達したのです。

この「謀略論」の延長として今日、「本部」革マル反動分子は、「反ファシズム統一戦線」なるものをもってわが動労千葉をはじめとする闘う労働者・人民に対する敵対をくりかえしています。こうして、動労「本部」革マル反動分子は、「謀略論」「冬の時代論」をもって、軍事大国化・改憲攻撃を強める日帝支配階級・国鉄当局への屈服をつきつきと重ね、闘う部分に対する敵対をくりかえしているのです。(続く)